

訪室せずに睡眠状態や起き上がり動作を把握することで巡視の負担を軽減、利用者の睡眠の質向上につなげる改善モデル



見守り

活用するテクノロジー

【カテゴリー】

- 見守り・コミュニケーション（施設）

【必要な機能】

- 臥床状態にある利用者の心拍や呼吸、体動などの状態からリアルタイムに睡眠状態を把握し、パソコンモニターやタブレット、スマホ、既存のナースコールなどに通知する機能。
- 把握できる睡眠状態は「覚醒」「浅い眠り」「熟睡」などで、アイコン等で視覚的に表示されているとわかりやすい。
- 体動などから「起き上がり」を検知し離床前に報知する機能。
- 日々の睡眠状況を日誌形式で表示し、傾向を確認できる機能。

【さらに効果を高める機能】

- インカムと連動し、離床等を音声で通知する機能。
- 介護記録と連動し、睡眠状態や離床時間などを記録に転送する機能。
- カメラに連動し利用者の様子が映像で確認できる機能。
- 転倒などの状況を確認できる画像録画機能。

機器の選択ポイント

機器の形態や設置方法、通信環境を検討します

- マットレスの下に入れるシートタイプのほか、カメラタイプ、ベッドの脚下に設置するタイプなどがあります。
- センサーのほかに中継器などの付帯機器の設置が必要な機器、カメラの壁固定が必要な機器や、ベッドを動かした際に再設定が必要になる機器があります。

通知したデータを受ける方法を検討します

- 大きな画面で確認できるパソコンや、移動中でも確認できるスマホなど、運用に合わせて検討します。
- インカムや介護記録と連携しない機器であっても、見守り機器のデータの転送するソフトと組み合わせることで連携した使い方が可能な場合もあります。



期待する効果

■職員の身体的・精神的負担の軽減

- 夜間巡視時間や回数を削減できる。
- 睡眠状態から離床行動を早期に察知し対応することができる。

■利用者生活の質の向上

- 巡視時に覚醒することが無くなる。
- 睡眠状態に合わせた排泄ケアの提供で質の高い睡眠を確保できる。

環境設定

【通信環境】

- 基本的にWi-Fi環境を必要とします。
- 高解像度の画像を送信するなど、Wi-Fiの規格や通信速度などの制約から既存の通信環境では機能しない場合があります。

導入のポイント

導入目的を明確化させましょう

- 必ずしも離床の把握を最優先した機器ではありません。
- 「離床にいち早く駆け付けたい」場合は、離床時の報知スピードを事前にチェックしましょう。

データをケアの質向上に活かしましょう

- 睡眠状態の把握から質の高い睡眠の確保や日中活動の充実などケアの質向上につなげることも大切です。



さらなる業務改善の方向性

看取りケアへの活用

心拍や呼吸が把握できることから、看取りケアでの家族や看護師・医師などへの連絡などで客観的な数値を活用でき、夜勤の精神的な負担の軽減につながります。（→モデル〇）

夜間睡眠状況の記録の自動化

睡眠状態や離床を介護ソフトに転送するシステムを構築することで、夜間ケアの記録業務負担を軽減することが可能です。

体位交換の自動化

自動体位変換機能を持つテクノロジーを合わせて導入することで訪室回数をさらに減らすことができます。



事例

社会福祉法人〇〇〇 X X X X（介護老人福祉施設）

取組前の課題

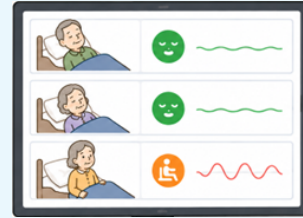
夜間帯は少人数の夜勤職員で多くの利用者の見守りを行うため、頻繁な居室巡視やナースコール対応に追われ、心身ともに大きな負担がかかっていた。

導入した機器

- 製品名（メーカー名）

取組や工夫

- 睡眠センサーや見守りカメラを導入し、利用者の呼吸数や体動、離床の予兆をリアルタイムで一元管理できるようにした。
- ナースコールと連動したスマートフォンを活用し、訪室の優先順位を判断することで、効率的な動線を確保した。



取組の成果

- センサーによる正確な状態把握が可能になったことで、不要な訪室や利用者の覚醒回数が大幅に減少した。
- 夜勤職員の精神的・身体的負担が軽減され、残業時間の削減や夜間ケアの質向上につながった。



〇〇施設長

介護テクノロジーの導入で夜勤職員の負担が軽減し、効率的な人員配置と働きやすい環境整備が進みました。今後はデータを活かし、ケア品質向上と持続可能な運営を目指します。



X X ユニットリーダー

スマホで状態が把握でき、無駄な訪室や夜勤の緊張感が和らぎました。心にゆとりが生まれ、丁寧な個別ケアや情報共有ができるようになり、現場の雰囲気明るくなりました。



動画情報



事例

社会福祉法人△△△ □□□（介護老人福祉施設）

取組前の課題

見守りセンサー、ナースコール、記録システムがそれぞれ独立して稼働しており、アラート対応のたびに異なる端末の確認や手入力の転記が発生していた。

導入した機器

- 製品名（メーカー名）

取組や工夫

- 既存の介護記録システムをハブとして各センサーやナースコールをAPI連携させ、アラート検知時に自動で記録画面へポップアップ通知する仕組みを構築。
- スマートフォンの活用により、移動中も即座に状況把握と音声入力による記録が行える運用へ刷新した。



取組の成果

- システム間の二重入力や確認作業が解消され、記録業務にかかる時間が大幅に削減された。
- リアルタイムな情報共有によって夜間帯の見守り精度やケアの質が向上し、スタッフの残業時間減少と離職防止にも大きく貢献している。



〇〇施設長

システム連携で情報共有が円滑化し、スタッフの残業時間が大幅に削減されました。ケアの質向上と職場環境の改善につながり、導入して本当によかったです。



X X 相談員

スマホ一つで状況把握や記録ができ、移動や転記の負担が驚くほど減りました。ご利用者とじっくり向き合える時間が増え、日々のケアにゆとりが生まれました。



動画情報

コラム

ダミーコピーです。組版のコンピュータ化が進んでんいます。ダミーコピーです。

ダミーコピーです。組版のコンピュータ化が進み、従来は専門の部署で行われていた組版の作業に多くのセクションが直接かわるようになりました。また、様々な分野の人がDTPに取り組んでいます。このような流れにともない、組版の品質がより重要な問題として注目されるようになっております。印刷物、特に組版の品質には次のような要素が関係してきます。フォントや組版ソフトそのものも持っている機能、印刷物の原稿およびその設計、組版における指示作業、この3つの要素があいまって、品質のよい組版、ひいては品質のよい印刷物が作成されます。長年にわたり培われてきた美しい文字組版を継承するために、フォントや組版の品質向上につとめるとともに、美しい文字組版が行える業界のノウハウを生かし、品質向上につとめます。ダミーコピーです。組版のコンピュータ化が進み、従来は専門の部署で行われていた組版の作業に多くのセクションが直接かわるようになりました。（408文字）